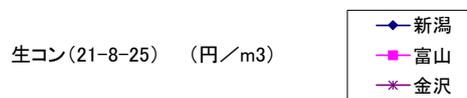
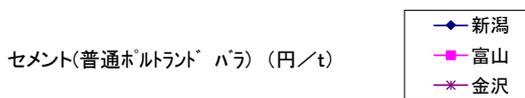


5. 主要建設資材の市況

記事提供：(一財)経済調査会 北陸支部

品目	10～12月期の状況と現況	先行き
セメント	<p>横ばい推移</p> <p>【新潟県】上越地区においては上信越道拡幅工事向けを中心に堅調な荷動きが見られるものの、下越・中越地区では盛り上がりを欠く展開が続いている。12月に最大手メーカーが平成30年4月よりt当たり1,000円の値上げを打ち出した。石炭価格の上昇、キルンに使用する耐火レンガの価格アップ、油脂類の高騰や人員不足を背景とした輸送コストの上昇によるもので、環境を同じくする他メーカーも追随の動きを見せている。しかし、好調な荷動きが見られる首都圏とは対照的に、県内の主要な販売先となる生コン、コンクリート二次製品の需要は低迷していることから、需要家との価格交渉は難航すると見る向きもある。目先、現行水準を横ばいで推移する見通し。</p> <p>【富山県・石川県】石炭価格や物流コストの上昇を理由に、セメントメーカー各社は、4月よりt当たり1,000円の価格引き上げを表明している。今のところ、大口需要先である生コンプラントへの具体的な価格提示はなく、現状はアナウンスにとどまっている。交渉の進展は、メーカー・特約店の足並みが揃うか否かが鍵となる。目先、横ばい。</p>	<p>(ハラ物)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>
生コンクリート	<p>新潟地区で下落</p> <p>【新潟県】港湾関連のブロック製作の減少をはじめとする公共工事の落ち込みにより需要が低迷している。新潟地区では、新潟生コン協組がこれまで採算重視の価格維持を唱えていたが、受注環境の悪化に伴い量販指向を強め、非組合員との販売競争が過熱したことから市況が軟化。12月にm3当たり500円の下落を示した。先行き、大型物件が乏しく、需要回復の兆しが見えないことから弱含みに展開すると見る向きが多い。</p> <p>【富山県】地区によって需要の盛り上がりにはばらつきが見られるが、とりわけ、高岡地区が前年度と比較して大幅な減少が目立つ。これは昨年の北陸電力LNG向けの出荷が最盛期だったことによる反動が主な要因。各地区とも共販体制に支えられ横ばいで推移しているものの、地区外の生コン工場からの流入が散見され、各組合では動向を注視している。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】南加賀地区での北陸新幹線の延伸工事向けに荷動きは好調。また、能登、金沢地区は前年度並みの引き合いが見られるが、この他の地区においては官民ともに需要が低迷し、前年度割れの出荷が目立つ。こうした中、羽咋地区で販売価格見直しの動きが見られるが、現在は販売側のアナウンスにとどまっており、具体化するには時間を要しそう。各協組は共同販売事業を軸とした現行価格維持に注力しており、当面、横ばいで推移する公算が大きい。</p>	<p>(21-8-25)</p> <p>(新潟) ↘</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>
骨材	<p>新潟地区でRC-40が下落</p> <p>【新潟県】荷動きが冴えない状況が続いている。コンクリート用骨材は、生コン需要の低迷から出荷量の減少が続いているが、共販体制の下、価格は横ばいで推移している。路盤材は、工事量の落ち込みから一部メーカーの販売業者の売り急ぎによる安値玉が見られ、市況への影響が懸念されていた。しかし、他メーカーは安値追随の動きはなく、価格に動意は見られない。先行き、現行値圏内を横ばいで推移する見通し。一方、RC材については、新潟地区でビル解体工事による発生材の増加から、中間処理業者が安値で在庫処分をする動きが見られ、11月にm3当たり200円の下落を示した。</p> <p>【富山県】道路用、コンクリート用ともに需要は低迷しており、荷動きは冴えない。そのため、一時期不安視された供給問題も起きておらず、納入に支障は出ていない。価格面では、平成30年4月からの値上げに向けて、組合では現状で安値契約となっている需要家と価格交渉を続けている。需要者側の抵抗は強いものの、採取コスト増の背景を説明し、理解を求めている。先行き、強含みで推移する見通し。</p> <p>【石川県】北陸新幹線延伸工事向けの需要が下支えとなり、路盤材の荷動きは好調に推移している。引き合いの中心は再生材となっていることから、建築解体工事の減少を映してRC材が不足する場面が散見され、代替品としての新材の出荷も目立つ。こうした中、一部の販売業者では需給の引き締まりを背景に価格引き上げを求めているが、需要者の購買姿勢は厳しく、取り組みは進展していない。目先、横ばいで推移しよう。</p>	<p>(C-40)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ↘</p> <p>(金沢) ➡</p>

【価格推移】



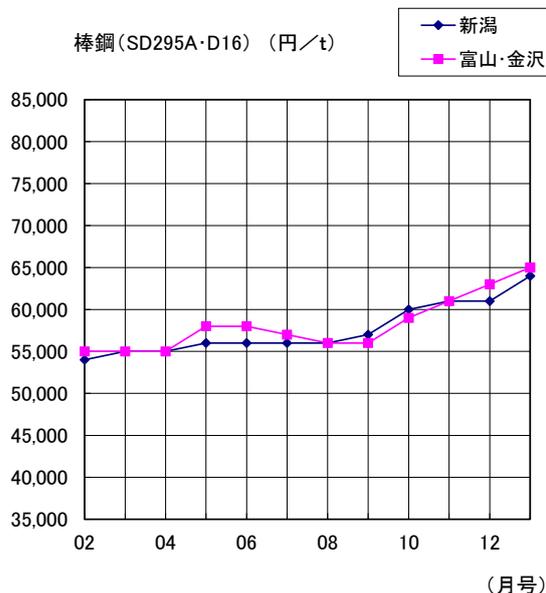
(月号)

(月号)

品目	10～12月期の状況と現況	先行き
棒鋼	<p style="text-align: center;">3県強含み</p> <p>【新潟県】鉄屑価格の上昇を背景に、採算確保が課題のメーカーは販売価格へのコスト転嫁を進めている。新潟地区の引き合いは冴えない展開が続き、需要者は当用買いに終始しているものの、製販ともに強い姿勢で値上げを推し進めた結果、10月にt当たり1,000円、12月にt当たり3,000円の上伸を示した。原料価格は上昇基調が続いており、メーカーは一段高を目指して売り腰を強めていく構え。先行き、強含みで推移する公算が大きい。</p> <p>【富山県・石川県】鉄屑価格の上昇により、製造コストが膨らむメーカー各社は採算確保を目指して販売価格の引き上げを求めている。急激なコストアップに対する需要者側の抵抗はあるものの、強気な販売姿勢を崩さず、10月、11月、12月と3カ月連続でt当たり2,000円の上伸を示した。採算割れの回避を優先課題とするメーカー側では、引き続き値上げを推し進めるべく売り腰を強めていく姿勢。目先、強含みで推移しよう。</p>	<p>(異形棒鋼)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>
コンクリート二次製品	<p style="text-align: center;">横ばい推移</p> <p>【新潟県】上半期は農業関連製品が好調に推移したものの、ブロック、道路用製品の落ち込みにより10月以降は需要が伸びず総じて荷動きは低調。販売側では、鋼材、石油製品の上昇によるコスト負担が増加しているものの、需給緩和局面下にあり価格転嫁できる環境にないことから、当面は現行価格を維持し採算重視の姿勢を強めていく構え。7～8月豪雨の災害復旧は年明けからの荷動きが見込まれ、小規模ながら期待要因となっている。当面、現行価格を横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】道路用製品の需要は盛り上がりを欠き、荷動きは低調。メーカー各社は出荷の減少を最小にするために民間の小口物件も含めて、数量の確保に注力している。一方、農業用製品については、県西部を中心に国、県発注工事で旺盛な荷動きが見られる。価格面では、需要者側の指し値は厳しいものの、メーカー側では総じて出荷量が振るわないことで採算悪化を懸念し、安値受注には慎重な姿勢。先行き、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【石川県】金沢外環状道路、能越・輪島道路、七尾の災害復旧工事、金沢市内の民間需要等に下支えされ、堅調な荷動きが見られる。明るい需要環境を背景に、一部のメーカーは、収支改善を目指して販価の見直しを実施したいとの意向を示しているが、価格引き上げへの各社の足並みは揃わず、具体的な交渉の動きは見られない。目先、横ばい。</p>	<p>(道路用製品)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>
アスファルト合材	<p style="text-align: center;">横ばい推移</p> <p>【新潟県】第3四半期における県内需要は道路維持修繕工事等の小口物件が中心で、荷動きは低調に推移。上越地区を除く各地区で需要が伸びず、工事の受注機会が減少している需要者からは値引き圧力が強まっている。しかし、油脂類が強含みに推移しているため、工場経費・輸送コストは上昇傾向にあり、メーカー各社は値引き要求には安易に応じない姿勢を崩していない。目先、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】富山県では、スト・アス価格の上昇を背景に、一部のメーカーでは1月からの値上げを唱えている。こうした中、商業施設の駐車場など民間工事向けに引き合いは増えているものの、公共工事向け出荷は減少傾向にあることから、価格引き上げに対する需要者側の反応は鈍い。先行き、交渉は難航すると見る向きが多く、横ばいで推移する見通し。</p> <p>【石川県】石川県では、能登里山海道・小松方面国道8号の拡幅、山側環状道路、新幹線関連工事の公共物件で荷動きが見られるが、ホテルや商業施設の駐車場等の民間物件向けは陰りが目立つ。こうした中、大型物件を受託した需要者からの指し値は厳しさを増しているが、スト・アス価格が強基調に推移していることから、供給側は現行価格の維持に注力している。先行き、現行水準を横ばいで推移する見通し。</p>	<p>(粗粒-20)</p> <p>(新潟) ➡</p> <p>(富山) ➡</p> <p>(金沢) ➡</p>

【価格推移】

棒鋼(SD295A・D16) (円/t)



合材(粗粒度20mm) (円/t)

